

NO FENCE

vol. 79 2022年1月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203

nofenceinfo@gmail.com

http://nofence.jp/



北の経済難はいつから始まったか

—『北韓の対南戦略の実態』(金東植著)から学んだこと—

旧正月の挨拶のようですが、明けましておめでとうございます。

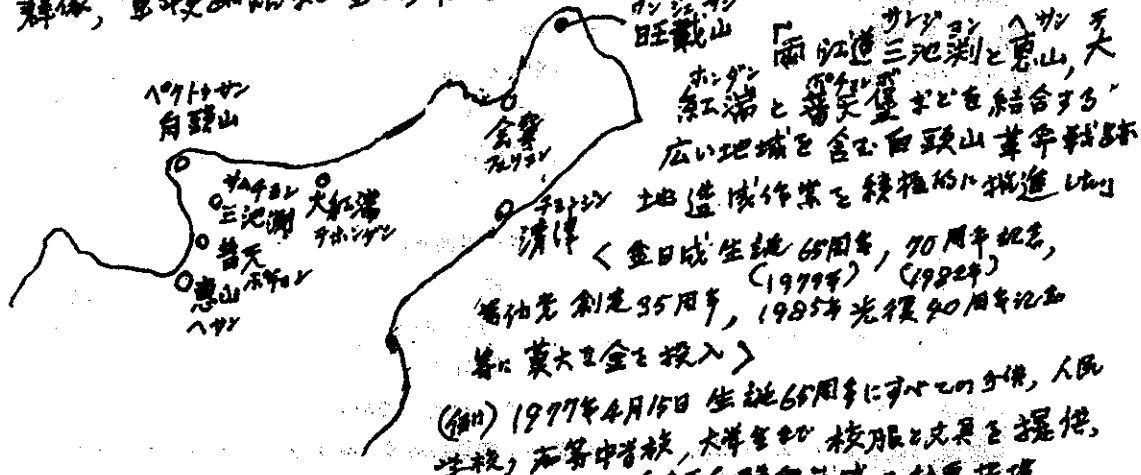
編集者(小川)は昨年末から上記の本(2013年刊, ソウル キハウン社)を読み始め、昨日読了しました。著者は優秀な北朝鮮の元職員で、1962年生まれで、邦訳はないと思います。約300頁。第4章「脱冷戦時期の対南革命戦略の変化」144頁~150頁の所で思わぬことを学びました。北朝鮮の現在の経済難はミサイル開発による国連の経済制裁によるものと理解していましたが、1970年代中頃から始まったことを知りました。とても重要な指摘と思いましたので、以下その要旨をご紹介いたします。新しい年の会報第1号とします。

本書によれば、1950~60年代の北の経済建設は「コリアの奇跡」として世界的に評価されていた(1965年に北を訪問した経済学者:ジョン・ロビンソンの評価)。しかし、1970年代中盤から北朝鮮経済の停滞が始まり、それは回復することなく続いた。その後の経済難をもたらした原因は4つ挙げられる。

- (1) 金日成が提示した「自主的民族経済建設路線」が北朝鮮経済の閉鎖性を招来。
- (2) 設備・技術分野への再投資をほとんど行わず、老朽化。
1984年「合管法」を制定し、外資導入を促し、在日同胞の資本が入り、人事権を手放し、経営権に干渉したので、程なく在日資本家は撤退し、技術設備の刷新が滞る。
- (3) 後継者 金正日の「善心政策(金前が金を使って人心を安んずる政策)と金日成の革命戦跡」に多大な投資をしたため、経済難を引き起こした。以下本書から具体的な事例を引用する。
<1970年代初の 旺載山(ワンジャサン)戦跡地建設> & <白頭山戦跡地建設>

「旺載山は北朝鮮の咸鏡北道 穩城(ウンソン)にある小豆山(ソト)の名称で、1933年3月 満州で活版印刷

金日成が、豆満江をわたり、この地で国内の人士たちとの会議を行ない日章(日)に對する
 武装放棄の方針を打ち出し、北は主張しない。金正日は自ら後継者と内定した。
 1970年代初めから 旺載山を自強山と共に2大革命聖地として造成するために「旺載山
 革命戦跡地」建設工事を発議して推進した。現在旺載山に金日成の銅像と
 群像、革命史蹟館など金日成偶像化象徴物が大規模に建立されている。(1978注)



旺載山
 金日成の銅像と群像
 三池淵と大紅溝と普天を結合する
 広い地域を金日成自強山革命戦跡地造成作業を積極的推進し、
 <金日成生誕65周年, 70周年記念, (1979年), (1984年)
 普天先創設35周年, 1985年光復40周年記念
 普天莫大に金を投入>
 (細) 1977年4月15日 生誕65周年にすべりの分、人民学校、石炭中學校、大學生校 校服と文具を提供、

菓子など。 1980年普天先創設35周年には100万人群衆示威と計画指揮。
 <1989年^{73日}世界青年学生祝典に莫大な資金を供>

(4) 1989年末~1991年 東欧・旧ソ連の崩壊による 北朝鮮に對する恩恵の薄
 と貿易代金の硬貨決済の要求による外貨の絶対的不足。

北はソ連と東欧諸国と物物交換の方法で貿易をしていたが、貿易代金の硬貨
 決済となり 外貨が不足になる。「特に資本主義の市場経済の転換後ロシアは
 旧ソ連か北朝鮮に提供した莫大な援助と借款、清算決済制度など多不
 不恵沢を中断した。その結果 1990年11月2日 旧ソ連と北朝鮮間の貿易代金の
 硬貨決済協定が締結され、1991年1月から硬貨決済の要求され、外貨
 が絶対的に不足するようになった。」

<具体的には>。旧ソ連からのエネルギー輸入は1990年の水準に比べて75%減、
 中国からの無償援助も大幅に減り、1991年5月には硬貨決済を要求される。
 原油を国際価格の1/3の価格で提供していた友好貿易も中断。
 1991~1992年。北朝鮮の石油消費量は以前と比べて25~30%減少。
 これは北朝鮮経済にとつてもない打撃を与える。

「このように 冷戦期の北朝鮮の對外貿易の50%以上を占めていた旧ソ連と中国が
 特惠貿易を中断し、硬貨決済を要求した次は、支払能力のない北朝鮮を
 して、外貨難 → エネルギー難 → 食糧難となつた。1990年代の經濟危機
 に直接の原因を提供した。」

以上4つの原因はいずれも説明力があるが、4は特に(3)の金正日の金の使い方という要約に
 目を開かされた。なお著者金東植氏のNOFENCEは2015年4月日本に招待講演会を開催している
 NOFENCE 会報34号参照のこと。 (文責 小川 晴久)

台湾有事と北朝鮮

宋允復 (本会副代表)

3年前、2019年1月のことであり旧聞に属する。北京で金正恩と習近平の四度目の会談が終わり、本隊が北に引き揚げた後にも中国に残り後処理をした実務者が、中国を去る際に旧知の者に密かに連絡を取り開口一番発したのが「台湾が危ないぞ」という言葉であった。北朝鮮人が何ゆえに台湾有事の懸念かと奇異に思われたのだが、要旨はこうであった。会談の際に中国側から「我々は遠からず祖国統一を必ずや果たす。貴国も祖国統一の悲願をともに果たそうではないか」

その「遠からず」がいずれ数十年の間にはなく、どうもごく近々、10年以内という感覚のようだ。「台湾相手にドンパチなどやらない。電撃的に占領してたちまちに決着をつける」とまで言う。

中国側に調子を合わせつつ北朝鮮側は内心緊張したのだという。

(台湾に軍事的に手出しをするというのか。アメリカが手を拱いて傍観するはずもなく、第三次世界大戦の導火線に火をつけることになるではないか。そこに我々を巻き込むつもりか)

中国から得られるだけのものは得なければならない。しかし中国にとって都合の良い駒として使い捨てにされるわけにはいかない。

幸いトランプという特異な者がアメリカの大統領となり、前年には初の米朝首脳会談に漕ぎつけた。千載一遇、この者が米大統領の職にある間に米朝関係を打開しなければ、2月末「成功間違いなし」と乗り込んだハノイの第二回米朝首脳会談は決裂に終わった。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

2022年の年明け以降、北は相次ぎミサイルを発射。ここ3年来のモラトリアムの見直しを検討すると表明した。核実験やICBM試射の再開を示唆したと捉えられているが、北の兵器開発部門にいた者の見立ては、「衛星打ち上げは必須、すでに六回の核実験を終えた北にとって核の小型軽量化はシミュレーションで進められるので、あえて核実験をやりはしないだろう」。

コロナ防疫を口実に国を閉じている間、思想統制、情報流出の遮断、密かに携帯電話を使用する者の摘発に躍起となっている。

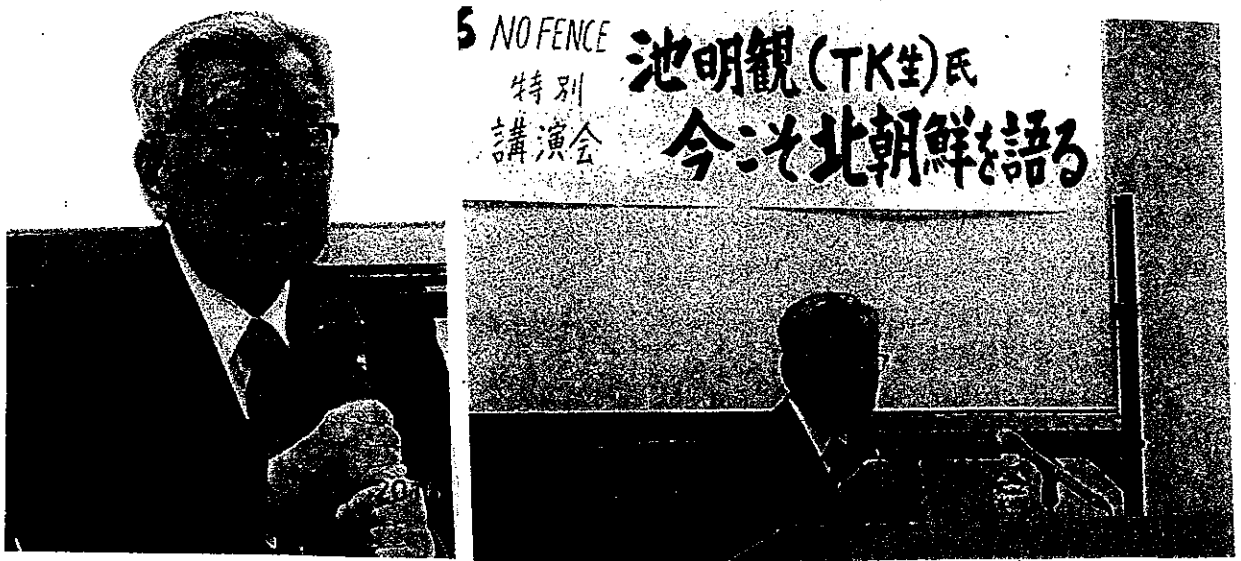
反動文化思想排撃法とは別途、当局の許可なく国外と連絡を取った者は15年以下の労働教化刑に処す旨の条項が刑法に追加され(21年4月頃)、両江道恵山市で昨年12月から始まった摘発は22年1月下旬現在まで続いているという。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

亡命を望む青年二人に目隠しをして北に差し出し殺すに任せた文在寅政権も間もなく終わる。文政権下で韓国の人権団体や脱北者の活動は抑制され、金正恩の独裁をサポートした。大統領選の結果がどう転ぼうが、民間の連携でできることをやらねば。

追悼 池明観先生

TK生としても知られる池明観先生が、去る一月元旦に脳梗塞で韓国で逝去されました。享年97でした。朝鮮のエルサレムと言われる定州でお生まれになり、3歳の時お父様を亡くされ、母一人、子一人の貧しい家庭で、熱心なクリスチャンのお母様に育てられ、1947年キリスト教の信仰が許されない北朝鮮から韓国に移られ、韓国の民主化のために1973年から1988年迄東京で岩波の雑誌『世界』にTK生の名で韓国からの通信を連載し、活躍されました。1993年に韓国に戻られますが、2015年と2016年2回、NOFENCE主催の講演会でお話しをして下さいました。その時のお写真とお話しの一部を再掲載して追悼の意を表したいと思います。ありがとうございました。



何をなすべきか——4つの視点

- (1) 韓国の知識人たちに北の問題に関心を持ってもらえるように、どのようにイニシアチブを発揮するか。
- (2) 一人の犠牲者を出すことなく統一を実現することに努力する。
- (3) 北朝鮮に対する人権思想からのアプローチが大事である。なぜ家族が分断され、往来ができないのか（離散家族の往来は、政治以前の間人間関係の問題である！）。
- (4) 政治的立場から市民の立場へ（東アジア市民連合の道）（会報42号4頁）

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 80 2022年2月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203

nofenceinfo@gmail.com

http://nofence.jp/



62次北送僑胞の脱出記

『悪夢575日』(金幸一著、1966年刊)を読んで

——3月23日帰国事業裁判第一審判決を前にして——

1959年12月14日から1984年5月まで約24年6ヶ月に渡って日本から主に在日の人々が9万3千余人北朝鮮に移住した帰国事業の責任を日本の司法に訴えた裁判が三つある。一つは2001年金幸一さん提訴の裁判、二つ目は2008年高政美さん提訴の裁判、三つ目は2018年川崎栄子さんら5人が提訴し、来月23日に第一審判決の出る裁判である。前二者は朝鮮総連を訴えた裁判、今回は北朝鮮の最高責任者金正恩を訴えたもので、前二者は門前払い(時効、免訴)されたが、今回は実質的判断が下される見通し。実は第一回裁判の原告金幸一氏が1961年6月9日第62次帰国船で北に渡り、1962年11月25日に脱出した約1年半の北朝鮮滞在記(表記)がある。山田文明先生からお借りして読んでみた。以下紙幅の許す範囲でその内容を紹介してみたい。

〈金幸一さん一家と父の勧め〉 北に帰国した当時金さんは16~7歳位であった。早く日本の高校に入りたかったが、総連の地方幹部の父(日本電話KK所属の電話架設請負業、中級位の生活)が反対し、北に渡れば只で学校に行けると強く息子に進めた。彼は愛知県岡崎市出身。

〈千里馬運動真つ最中の北〉 金さんが北に渡った時は千里馬運動の真最中、第一次五か年計画(1957~61)の最終年の年であった。高峻石『北朝鮮現代史入門』(批評社、1988年)によれば、朝鮮労働党第3回党大会(1956年4月)で金日成の重工業優先政策に批判が出て五か年計画は採択されず、1958年3月の第一回活動者会議で採択。このような状況下で千里馬運動が提起され、工業総生産額目標はわずか2年半で達成されたと発表。千里馬運動(=朝鮮の社会主義増産運動)計画期間中の1958年8月までに、農業および私営業・工業の協同化、即ち社会主

義への改造が100%完了したとされた。小商品生産者は完全に消滅し、協同的所有と国家的所有の二つの集約的所有形態からなる社会主義生産諸関係が前面展開されたという。

金さんが配属されたところは咸鏡北道の港町雄基（ウング）の雄基総合機械工場。希望すれば学校にゆけると思っていたのに、出発からちがつていた。

〈千里馬運動の真相〉「この工場にも、中央から指名された「千里馬作業班」が二組あった。彼等が「千里馬」の称号を貰うために、血と涙の労力を捧げて得たものは、実に肺結核三名、肋膜炎二名、栄養不良七名の輝かしい患者の一軍であった。必死になって、計画量の百八十%を完遂したが、次の期には、前期分に劣らじと、もっと能率をあげねばならず、そのすざましい有様は、丁度日に千里も走る千里の馬の様だということで、千里馬運動という労働搾取の新方法を案じたものだ。

ただ、この工場でも前記の通り、一軍の被害者を出したけれども、被害を被ったのはその人々だけじゃなく他の連中も被害を被ったのだ。

彼等、党の言い分はこうだった。

同じ給料で同じ労働時間、同じ党員であり同じ職場で、全く同じ条件でありながら、片一方では計画量の百八十%を達成するのであるから、他の連中もそれと同じ量、同じ能率の成果をあげ得る筈だ、頑張るんだ、やりおうせばできるのだと、この理屈を押しつけるのであった。これには誰もグの音も出ない。」

「私もそのおかげで千里馬に乗せられた。一九六二年七月から八月十五日までの四十五日間、「朝鮮民族解放記念戦闘」とかいうこの運動に参加させられた。また、同年九月一日から始まった、第三期最高人民会議代議員選挙記念増産期間を設定して三十七日間、この増産運動に参加させられた。毎日十二時間の労働を、休日もなければ休息時間もない、ぶっ通しの労働が、実に三十七日間続いたのである。」

「党委員長、工場長、その他の幹部連の目は血走り、殺意がみなぎっていた。こんな時に、へたなまねでもすれば、その場でなぐり殺されかねまい。・・・彼等は党の命令とか、人民の為とか、口実を付けて平気でやってのけるだけの鉄面皮なのである。これが千里馬運動の真相だ。」（96～98頁）

〈女性の中性化〉「汲取りの家庭婦人！草取りの婦人！寒風にさらされながら、煉瓦をつみあげている夫人！彼女達は、一生、ルーージュも知らずお白粉ッ気のない女達！男と同じく七〇〇グラムの配給米を食べる女達である。男なのか女なのか区別のつかない女達である。」

「なぜ、彼等、幹部連の家内は職場戦線にたたせしないで、あわれな労働者や農民の娘たちだけを、工場や田畑にかり出すのだろう。これも、やっぱり共産貴族の仕業の一ツなんだろうか。男と女とを対決させて、甘い汁は共産幹部達の独り占めで終わってしまうのが男女平等権だと、私は初めて気がついた。」

〈日曜などない北朝鮮〉「北朝鮮での公休日は、正月元旦と、メーデー、それに八・一五解放記念日の三日だけが一年中の公休日だった。」

「又戦闘機関でなくても、月に四・五回の日曜日も、少なくとも三度は、労力動員にかりだされた。特に、雄基邑では、山毎に、戦争のためか、それとも日曜日の動員の為なのか知らないが、全邑民が動員されて、防空壕を数限りなく掘ったではないか。いや、日曜日になれば他の日よりも倍の重労働が待っていたという方が、あたっているかも知れない。だから、『栄ある吾が祖国』ではコヨミなんか必要でないのである。」

〈手紙の検閲〉 金幸一氏は一年半の北朝鮮滞在中にお母さんに60回手紙を出した。しかし届いたのはたった二通であったという。一割位調べて一通でも体制批判のものがあれば、他は全部焼却されたという。こういう凄惨な検閲の中でそれをくぐり抜けて書こうとしたのは、只三つ。体制礼賛、物送れ、こちらに来るな。最後のは総連系の友人と民団系の友人の名を取り換えて工夫したりした。

以下の記事は 昨年1月18日 特定失踪者調査会の調査会NEWS 3385からの転載です。
荒木和博氏の了解を得ました。ご紹介したい理由は特に次頁の「スフィア」記事との対比のため。

〈李ミンボクさんのメッセージ〉

(編集者より)

荒木和博

調査会のバルーンプロジェクトでお世話になっている韓国の李ミンボクさんから以下のようなメールが届きました。関係者に送っているもので、日本国内でも他に受信された人もおられると思いますが、ご本人の了解を得て掲載します。なお、現在は文中にもある韓国の対北ピラ撤布を禁止する法律によってピラを飛ばすことはできなくなっています。

北朝鮮問題、この道しかない

私は北朝鮮で数少ない軍服務が除外された教育体系を経たものだが、太極旗(韓国国旗)を見たことはなかった。始めて見たのは33歳のとき、韓国からのピラであった。脱北という人生革命と使命感もピラを通じてだった。

「統一されないのは憎しみだが主な根拠は朝鮮戦争だ。北進して瓦礫の山を作り数百万を殺した米国と傀儡が不倶戴天の敵である理由だ」と北朝鮮ではされてきた。しかし正反対の事実をピラで知り驚いて脱北を決心、これを知らせて平和統一に貢献したかった。

これが本心であることは中国・ロシアを経て韓国入国後対北情報提供文献で証明、ピラは原子爆弾より威力のある効果をもたらすと強調した。これが認められて対北ピラ担当部署でも働くことになったが英語ができないという既得権の妨害で霧散した(筆者はロシア語のみ学んだ)。

さらに残念なのは政府自身が対北ピラを中止、2000年初め頂上会談の条件として提示した金正日日の要求に応じたものだ。20年経ってみると残ったのはノーベル平和賞しかなかったのではないか。目、耳を塞がれた同胞に対する一抹の同情もなかったようだ。見て聞くとという根源的な人権を政治取引の対象にした下種(げす)の政権に感じられる。

官権がこうだから義兵として立ち上がるしかなかった。狂ったように5年間没入して研究した末民間人もできるように開発(特許)、対北ピラの元祖になり真実を送ったから偽神格者は死ぬ思いだったろう。数百回の脅迫と暗殺未遂、高射機銃射撃、南北事務所爆破、ピラ反対法を作れという要求。

「対北ピラは全く無益」だと回答した人間が情報機関のトップに就任する世の中。「多少核兵器に使用されても」ドルを渡す協力者だというのに驚愕する。彼らの相思相愛で本当に対北ピラ反対法が通過した。歴代対南工作機関もできなかった、金兄妹だけ喜ぶ「快挙」である。

この反対法は表現の自由という壮大な憲法以前に初歩的な常識と事実と反する。まず南北間合意の約束を守るためだというのが二つ問題点がある。

- 1、政府間の約束を民間も無条件で守れと言うがこれは北朝鮮のような独裁国家でこそ可能なことだ。
- 2、南北合意はあまりにも不公平、インターネットのない北朝鮮はインターネット最先進国である韓国に対して一方的に心理戦を今もやっている。均衡を保つ合意ならピラとともにインターネット条項も置かなければならない。

対北ピラ反対法の名分は国民の生命と安全だが、これには六つの問題がある。

- 1、表現の自由を標榜する国民保護ではなく、かえって加害する北朝鮮側に立って犯罪者にする。これでも国家なのか。

2、真の対北ビラは国民の生命、安全に問題はない。対北ビラは二つの形態、即ち公開と非公開がある。対北ビラはレーザー、熱、音、目で追跡できない完璧なステルス兵器であって非公開的にやれば誰も知らず害を及ぼさない。しかし公開と非公開を区分しないで一つの棍棒で叩く。

3、公開的対北ビラ行為は「対国民詐欺劇」であり(2014年河泰慶議員が公表)無資格者、これを妨げるのは警察職務執行法とガス安全法で十分であるにも関わらず職務放棄しておいてその責任を民間に転嫁する。既存法でも社会不安を惹起する公開的対北ビラをいくらかでも防ぐことはできる。

4、ビラ反対法強硬のバックには67%の反対世論だというのが非常に間違った世論調査だ。即ち公開的対北ビラ条項のみ入れて問題にならない非公開的ビラ条項は入れない世論調査であるためだ。

5、第3国を通じる対北ビラまで処罰する条項は近接住民の生命、安全とは関係なく、したがって無理な弁明であることを証明している。

6、対北ビラを法にない「災難」として宣布し(罪刑法定主義違反)対北ビラ装備回収、塵払い式捜査をする。

状況がこうであるにも関わらず対北ビラ反対法を強硬する理由は何か。北朝鮮当局に会って交流し解決するとのことだ。しかし冷静な歴史はみせてくれる。そうやって変わるものはないと。

日帝打倒、独立、米帝打倒(朝鮮戦争)で国を守った神格者の北朝鮮、これは閉鎖という培養器の中だけに存在する。北朝鮮の核もこのための最後の手段である。それを放棄してこいというのは死ねということなのにそうするだろうか。

北朝鮮問題、行く道はこれしかない。これは20年前から黄長燦・元労働党書記が教えてくれた。「北朝鮮の属性は中国のような改革開放には進めない。北朝鮮の人々を覚醒させるしか近道はない」北朝鮮が畏れない橋を渡ったと、誰もが考えた2000年金大中・金正日首脳会談共同宣言の中での言葉だ。北朝鮮の精神的支柱を作った黄長燦の言葉も聞かない世の中だ。しかし聞かなければならない。そうしなければ今見ているように遠ざかるだけだ。

ラジオ、インターネットが許されない唯一の閉鎖と神政が北朝鮮の特徴で有り普通の属性であることを心に刺んで。

元北朝鮮科学院研究員
現社団法人北朝鮮同胞直接救援運動・対北風船団長 李ミンボク
(1990年脱北、中国、ロシアを経て1995年韓国入国)

李ミンボクさん、北を脱出して韓国に亡命した理由、韓国が北の人々に真実の情報をビラで伝えている意義、5年内石炭とステルス兵器を開発し、買収してきたが、韓国政府の対北ビラ反対法でそのことを禁止されたこと、理不尽に怒りを覚えます。編集者(小川)は上記のステルス兵器については全く知識がありません。李ミンボクさんのメッセージを熟読して下さい。(文責 小川晴久)

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 81 2022年4月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203

nofenceinfo@gmail.com

<http://nofence.jp/>



3.23 帰国事業裁判一審判決

報告とその批評

弁護団は3月23日の判決について、ホームページに、

「・勧誘行為については、除斥期間(20年)の経過により棄却

・北朝鮮への渡航後の留置行為については、勧誘行為との(不法行為

としての)一体性を認めず、日本の国際裁判管轄を否定し却下

という不当な結論でした。原告は全員控訴する予定です。」と報告した。

〈若干の解説〉 原告5人はウソの勧誘行為(「地上の楽園」という不法行為と自由往来を許さないという留置行為の不当行為の二つを北朝鮮当局(最高責任者)が行ったと訴えたが、地裁判決は二つの不法行為を認定しながら(認めながら)、それは別々のことで(両者の一体性を認めず)、前者は日本で、後者は北朝鮮で行われたことで、その場所と時期もちがうとし、前者に対しては20年以上はるかに経っており、後者に関しては脱北して以後10何年も経ってから時期を失しているとして、日本の裁判の管轄を否定し、原告側の主張を却下した。

〈判決文を読んで、編集子の批評・批判〉

一、北朝鮮当局を訴える裁判が日本で成立したことは、日本が北朝鮮と国交を結んでいない特殊事情からのみ実現したことで、特別に評価できることではない。国

交を結んでいる同士では相手国(代表)を訴えることはできないという「主権平等の原則」という国際法原則がある。しかし国交を結んでいない特殊条件を東京地裁は十分生かすことをしなかった。高裁、最高裁では生かすべきである。

二、留置行為の不当行為は、北朝鮮の一般国民に行われているから、特に原告たちだけに行われたものでないと言って、損害賠償請求権がないという判決は、世界人権宣言第13条のいずれの国にも入る自由、出る自由を認めた人権を、東京地裁は主張していないおかしい判決である。

総じて、上記一の条件を活用して北朝鮮当局を裁く絶好のチャンスを行行使しなかった今回の東京地裁判決は、国際法にも反するものであり、9万3千余人の帰国者たちの苦しみに理解のない判決と言わざるを得ない。(小川 晴久評)。

スザンナ・ショルテさん、歴代政府高官 20 余名と共に 文在寅大統領に呼びかけ—在中脱北者の受け入れを。

アメリカの北朝鮮人権活動家スザンナ・ショルテさんは、5月10日に任期を終える文在寅韓国大統領に歴史に残る仕事として、中国に拘禁されている数百人の脱北者の受け入れを行うよう求めている。3月24日朝鮮日報が伝えた。ショルテさんだけでなく、1970年代以降の歴代のアメリカ政府に努めた高官20余名がそれを求めていることを紹介しながら。



四つ理由を挙げている。一つはコロナ対策として、北朝鮮は国境を封鎖していて、中国政府は脱北者を北朝鮮に送還できていず、特に脱北女性たちを釈放し、人身売買ブローカーたちのもとに戻している事実がある。二つ目に、韓国は2月の北京冬季オリンピックボイコットに参加していない。三つ目は、中国は北朝鮮のミサイル開発に腹を立てており、韓国への入国を大目に見る可能性あり。四つ目は、文在寅の家族が朝鮮戦争のとき興南港から韓国に避難した10万人の北朝鮮人の一員であった事実。在中脱北者の中から、将来韓国の大統領が生まれる可能性も指摘して。

歴代のアメリカ政府の高官たちやショルテさんたちの要請に、文在寅氏が耳を傾け、5月10日までに在中脱北者を韓国に迎え入れるか否かは、大変注目される。彼が人権大統領であり、人権弁護士であるかが問われているからである。5年間の任期中韓国内の脱北者NGOへの財政支援を打ち切り、対北ビザ禁止法を制定するなど反人権的なことを多く実行してきた大統領であるから、この要請に応える可能性は極めて少ないが、見ものである。

北朝鮮外務省 アメリカの北朝鮮人権団体を批判
NRNK (北朝鮮人権委員会) は、去る3月1日 北朝鮮外務省のウェブ
サイトで「^{アメリカ}悪質なニセ人権団体」と題して当会を批判したと発表し、その批
判文(英訳)とそれへの回答 ^を 国際的呼びかけを發表した。代表スカラチオ氏は
批判の主体(北朝鮮人権研究所)が2014年のUN人権理事会の北朝鮮人権報告書(C10)に

反論は主権であると言ふに北朝鮮外務省の批判であると判断した。以下全文を英訳で紹介する。読解に必要な単語の日本語も添える。

The Disgraceful Behavior of a ^{恥ずべき} 「醜悪な」 ^{行為} Fake Human Rights Organization ^{人権団体}

Recently, the U.S. Committee for Human Rights in North Korea has once again engaged in a frantic effort to attack the DPRK over human rights issues. ^{HRNK}

The U.S. Committee for Human Rights in North Korea is an anti-DPRK ^{存在(存在)} entity, directly controlled by the U.S. government under the guise of a non-governmental organization, that slanders the dignity of our country and seeks to overthrow our institutions.

The true nature of this organization was revealed in a February 2018 UN Economic and Social Council (ECOSOC) meeting.

At the NGO Committee meeting of the UN ECOSOC, the U.S. Committee for Human Rights in North Korea was deemed to be an organization that severely violates the spirit and principles of the UN Charter and the UN ECOSOC Resolution of 1996/31, which prohibit activities that subvert state entities or infringe on state sovereignty. It was thus denied ECOSOC consultative status.

In response, the United States threatened and denounced the countries that denied consultative status to this organization as "human rights violations" in April on the same year, at the Coordination and Management Meeting of the UN Economic and Social Council, ECOSOC was forced to adopt the decision to grant consultative status for the U.S. Committee for Human Rights in North Korea because of U.S. pressure.

Based on this fact alone, it is abundantly clear that the U.S. Committee for Human Rights in North Korea is a puppet organization that is directly supported and controlled by the U.S. government.

In accordance with orders that it received from the U.S. administration, this organization urged the United States to prioritize the "human rights issue" during the North Korea policy review last April. It also called upon the United States to strongly raise the North Korean human rights issue and regularly discuss this issue at the UN.

Furthermore, this organization persistently spreads baseless rumors that our proactive border closure measures, taken in response to a global public health crisis, have exacerbated food scarcity in our country. It frequents the UN in its activities.

悪化させた 欠乏 国連への活動

The intentions of this organization in the recent anti-DPRK "human rights" racket are clear.

妨げます 勇敢 馬鹿さ

It seeks to impede our progress because it fears our prowess and conceal human rights issues in the United States, which are worsening by the day. It is absurd that the United States, which has the world's worst human rights record, dares to talk about the human rights of other countries.

アメリカは世界最悪な
人権侵害の記録を持つという

America is a place where people like Mr. Floyd, a black man who died in May 2020 because of the violence inflicted by a white police officer, suffer brutal human rights violations and lose their lives because they are of a different race. Moreover, countless women are victims of human trafficking, and their dignity is trampled upon.

人身売買 辱め 尊厳 踏みつけ

The United States should refrain from presumptuous behaviors and instead focus on getting its own house in order. It should promptly discard any attempt to tarnish DPRK's image through anti-DPRK front organizations such as the U.S. Committee on Human Rights in North Korea.

固守する

It should be kept in mind that clinging on to this human rights racket is a clear expression of the hostile policy towards our country and our system, which will only serve to darken prospects for U.S.-DPRK relations.

Kim Choong-hyuk

Researcher, DPRK Association for Human Rights Studies

徐基勲 北朝鮮人権研究会

<この批判文への批判> 出だしの二行に注目「最近米人権協会 HRNKはわが国の人権状況を攻撃するのみに専念する努力に、また再び従事している」最近のHRNKの活動は、その内容から見て、北朝鮮の悪化を煽ることに及んでいない。その後の、国連憲章の条文と国連の経済社会理事会の決議違反であるという主張は、いずれの国も他国の完全な守り手ではないという条約決議に違反したと言っているのである。HRNKはアメリカ政府の指導の下に動くという二重の人権団体で、Bの所でアメリカが世界最悪の人権破壊環境にあると具体例をあげている。しかし、最近の北朝鮮は、北朝鮮こそ人権侵害の最悪国である。Aの所でHRNKの活動の本質を正しく指摘している。北朝鮮の人権問題をアメリカ政府の方針の中で最優先すべきことをHRNKは決してアメリカ政府に要求しない。この批判文は、恥知らずなもので、彼らの（北朝鮮）人権は自国の体制を守るための手段（小4評）

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 82 2022年4月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203
nofenceinfo@gmail.com
<http://nofence.jp/>



池明観(TK 生)氏の遺言

「国土の分断とその遺産である北の政治犯収容所——この人間悪の解決こそ 21 世紀の最大の課題」(2017年3月19日「今、北を想起しつつ」より)

1970年代から80年代に TK 生として韓国の民主化のために「韓国からの通信」を東京で執筆されて活躍された池明観氏は今年の元旦に97歳で逝去されたが、2017年3月19日付けの「今、北を想起しつつ」という一文を送って下さり、本誌会報43号にその翻訳を載せている。今回それを読み返してみたらとても重要なことを指摘されておられた。表記のご指摘である。2016年12月21日の NO FENCE 主催の講演会で北ご出身の氏は「今こそ北朝鮮を語る」と題してお話下さった。その3か月後に上記の一文を送ってくださったのである。この一文の末尾に上記のご指摘がある。このご指摘を氏の遺言ととらえ、北の強制収容所をなくす我々の活動のモットーとし、広く国内外に知らせていきたい。翻訳文は再録であるが、原文は初めて世界に公表するものである。何度も読み、かみしめていきたい。



二〇二二、七、六 北東アジア歴史財団関係

今、北を想起しつつ

2017年3月19日

池 明観 (TK生)

どうしてか、朝鮮(韓)半島の南北を通して、激動の時代に突入するように感ずる。北はマレーシアで金正男を殺害した。南では始めて民主主義の手続きを経て、朴槿恵を権力の座から追放した。

私は1973年に朴正熙が彼の政敵である金大中を東京から拉致した時を考えざるを得ない。しかし国際的な圧力で金大中を殺害することは出来なかった。しかし北では今も政敵とされたらあのように殺害して、それを自分たちがしたことではないと、責任逃れをしようとしている。丁度1973年に朴正熙政府が金大中を日本から拉致しておきながら、自分たちがしたことではないと、様々な言い逃れを尽したように。

このように回想すると、韓国が1973年にしたことを、今2017年に北は今もしていると言っても、可能ではないか。そして韓国は今や民主的な手続きによって朴正熙の娘を権力の座に就かせたかと思えば、彼女が間違った行動をするや、同じ民主的な手続きで、全国民、また全世界が納得する方式で彼女を権力の座から立ち退かせたではないか。南の韓国が1973年にしたと同じ無法政治を、今も北は継続しつつ、世界を騒がせていると言わなければならない。南では民主的な手続きで朴槿恵を追い出したことは、ひょっとすると、朴正熙から始まった軍部統治とその残滓を、2017年にはきれいに清算し、民主政治の成熟期に達して歩みだしたということが出来るかも知れない。そうだとすると、軍事統治の悪遺産は、46年ぶりにきれいに清算されたと言えるのかも。

一方、北の体制は、そのような変化もなく、今も政敵をさがし、海外で残忍な行動を継続しているとすれば、南の韓国に比べて少なくとも半世紀以上立ち遅れていることになるのではないかと考える。北は共産主義の理想社会を夢見て出発したといっても、結果的には、このような落後した体制を無理に維持しようと、持てる力を全て発揮している勘定だと言えないか。

独裁や専制は、駄目だ。自由な民主体制も、数多くの欠点を持っていると言えるが、それでも人間が追及して打ち立てることの出来る一番適切な体制であると言うほかはない。私も多くの模索と彷徨の末、このような結論に満足しなければならぬようだ。人間とは、このように不十分な存在なんだなあと行って、ため息をつくほかはない。

北を離れ、南下した生涯

私は1945年解放された頃、北の定州という所で、小学校の教師をしていた。正しい情報が伝わらない日帝(日本統治)支配下で、突然我々は解放を迎え

이제 北을 想起하면서

2017년3월19일 지명관 (TK生)

어쩐지 한반도의 남북을 통하여 격동의 시대로 돌입하는 것 같이 느껴진다. 북은 말레시아에서 김정남을 살해했다. 남에서는 처음으로 민주적인 절차를 거쳐서 박근혜를 권좌에서 추방했다.

나는 1973년에 박정희가 그의 정적인 김대중을 도쿄에서 납치했던 때를 생각하지 않을 수 없었다. 그러나 국제적인 압력으로 김대중을 살해할 수는 없었다. 그렇지만 북에서는 오늘도 政敵으로 예상된다면 저렇게 살해하고 그것은 자기들이 한 것이 아니라고 발뺌을 하려고 한다. 마치 1973년에 박정희 정부가 김대중을 일본에서 납치해 오고는 자기네가 한 것이 아니라고 갖은 발뺌을 다 했던 것처럼.

이렇게 회상한다면 한국이 1973년에 하던 것을 지금 2017년에 북은 아직도 하고 있다고 해도 되는 것 아니겠는가. 그리고 한국은 이제 민주적인 절차에 의해서 박정희의 딸을 권좌로 나아가게 했는가 하면 그녀가 그릇된 행동을 하자 같은 민주적인 절차로 전 국민 또는 전 세계가 납득하는 방식으로 그녀를 권좌에서 떠나게 했다.

여기에 한반도의 남북의 정치는 확연히 다르다고 해야 하는 것 아니겠는가. 남쪽 한국이 1973년에 하던 것과 같은 無法政治를 오늘도 북쪽은 계속하면서 세계를 떠들썩하게 하고 있다고 해야 하는 것이 아닐까. 남쪽에서 민주적인 절차로 박근혜를 내몰았다는 것은 어쩌면 박정희로 시작된 군부통치와 그 잔재를 2017년에는 멀끔히 청산하고 민주정치의 성숙기를 향해 걸어가게 된 것이라고 할 수 있을지도 모른다. 그렇다면 군사통치의 악유산은 46년 만에 멀끔히 청산되었다고 할까.

한편 북의 체제는 그런 변화 없이 아직도 정적을 찾아 해외에서 잔인한 행동을 계속하고 있다고 한다면 남쪽 한국에 비하여 적어도 반세기 이상 뒤떨어져 있는 셈이 되는 것이 아닐까 생각된다. 북은 공산주의 이상사회를 꿈꾸면서 시작했다고 하면서도 결과적으로는 이런 낙후된 체제를 무리하게 유지하려고 안간힘을 다하고 있는 셈이라고 하지 않겠는가.

독재나 전제는 안 된다. 자유로운 민주체제도 수많은 결점을 지니고 있다고 하겠지만 그래도 인간이 찾아 세울 수 있는 가장 적절한 체제라고 할 수밖에 없는 것일까. 나도 많은 모색과 방황 끝에 이런 결론에 만족해야 하는 것 같다. 인간이란 그렇게 부족한 존재인데 하고 한숨짓지 않을 수 없다.

북을 떠나 남하한 삶

나는 1945년 해방되던 무렵, 북쪽 定州라는 곳에서 소학교 교사를 하고 있었다. 바른 정보가 전해지지 않던 일제 지배 하에서 돌연 우리는 해방을 맞이한 셈이었다. 그래

わけである。そのため、解放を、贖罪意識を持って迎えて、海外から帰国した李承晩や金九の肖像画を教室の壁に貼って、彼らを称賛した。翌年の春であったか、金日成の支配下にあった北朝鮮人民委員会では、一斉に金九や李承晩の歪んだ漫画を壁に貼って、彼らを罵倒しつつ、その代わりに金日成の写真を掲げ、彼に対する称賛を誓えというものであった。

私はその時、誰がどれだけ偉大であるかわからなかった。ただ日本の天皇を称賛させられたが、やっとのことで李承晩・金九の称賛に変えたのに、今また金日成に称賛対象を変えなければならないとしたら、幼い生徒たちにどんな顔に向けたらよいか、当惑せざるを得なかった。生徒たちに会す顔がないというほかはなく、小学校教師の座から退く道を選んだ。私が辞職を決定し、その意を生徒たちに伝えた時、教室全体が涙の海になったことを、私は長い間忘れることが出来なかった。立ち去る私のためばかりでなく、このように解放されたと言っても、慌ただしいことこの上ない祖国の状態が、幼い心にも、やるせなくて、皆が泣いた。

たちまち北の土地も慌ただしくなった。共産党政権下になって、曹晩植のような愛国者はいずれかに拉致され、いなくなってしまった。そのため共産党政権が確立したためではあるが、多くの人々が逮捕されて、恐怖の雰囲気は支配し始めた。そのような北の社会を離れ、私が38度線の南に南下したのは、1947年3月であったが、すでにその時は、多くの人たちが逮捕されて、シベリアへ流刑されたという時であった。

多分その時そのような時代に、北は姜哲煥・安赫が『北朝鮮脱出』という本で描いたような凄惨な政治収容所に悪化し始めたのだと考える。北の体制とは、一人の政治犯がいれば、その昔のように三族が連座する社会であった。だから私が離れる頃には、すでに息子は、父親が日本統治に協力した国家反逆者であったと告発しなければならない険悪な社会であった。党に対する忠誠の優先、やがて金日成に対する神的な崇拜に、社会の全てが埋没して行くほかはなかった。

私は、日帝下（日本統治下）で中断しなければならなかったキリスト教教会に戻ったが、再び信仰生活を中断するほかはなかった。教会の指導者たちが次々に逮捕され、シベリアに送られる時代であった。北に残っている人たちとは、早くこの体制に順応した人たちであり、38度線以南の人を頼って移ることは、出来ない人々であった。日帝下で共産主義社会を慕った人たちも、多くの人たちが脱落していった、本当に悲しい時代であった。そのため南を慕いながらも、南に行くことの出来ず、北に残らなければならなかった人たちとは、北の共産治下で、本当に恨み多い人生を生きるほかはなかった。

そのような中で友達の手助けで38度線以南に身を避けることの出来た私は、

서 해방을 속죄하다시피 하면서 맞이하고 해외에서 귀국하는 이승만 김구의 초상화를 교실 벽에다 부치고는 그들을 찬양했다. 그 다음해 봄이었을까. 김일성의 지배 하에 있었던 북조선 인민위원회에서는 일제히 김구나 이승만의 이그러진 만화를 벽에다 부치고 그들을 매도하면서 그 대신 김일성의 사진들, 그를 칭송하고 그에게 충성을 맹세하라는 것이었다.

나는 그때 누가 얼마나 위대한지도 알 수가 없었다. 다만 일본 천황을 찬양하다가 간신이 이승만 김구 찬양으로 바꾸었는데 이제 또 김일성으로 칭송 대상을 바꾸어야

한다면 어린 학생들에게 무슨 얼굴로 대할는지 당황하지 않을 수 없었다. 학생들을 불 낮이 없다고 할 수밖에 없어서 차라리 소학교 교사 자리를 물러나기로 했다. 내가 사직을 결정하고 그 뜻을 학생들에게 전했을 때 온 교실이 울음바다가 됐던 것을 나는 오랫동안 잊을 수가 없었다. 떠나는 나 때문만이 아니라 이렇게 해방됐다고 하면서도 어수선하기 짝이 없는 나라 형편에 어린 마음에도 안타까워 모두가 울었다.

곧 북쪽 땅은 어수선해졌다. 공산당 집권 하에 曹晩植과 같은 애국자는 어디론가 납치당해 가고 말았다. 그래서 공산당 정권이 확립된 셈이지만 수많은 사람들이 체포당하는 공포 분위기가 시작됐다. 이런 북쪽 사회를 떠나 내가 38선 이남으로 남하한 것은 1947년 3월이었지만 이미 그때는 수많은 사람들이 체포당하여 시베리아로 유형되었다고 하던 때였다.

아마도 그때 그런 시대에서 북은 姜哲煥 安赫이 『북한 탈출』이라는 책에서 그려낸 것 같은 처참한 정치수용소로 악화되기 시작한 것이라고 생각된다. 북쪽 체제란 사람의 청치범이 있으면 그 옛날처럼 3族이 연루되는 사회였다. 그래서 내가 떠날 무렵에는 이미 아들은 아버지가 일제하 부역자였다고 고발해야만 하는 험악한 사회였다. 당에 대한 충성 우선. 머지않아 김일성에 대한 신적인 숭앙. 이런 모두가 말하자면 사회에 매몰돼가는 수밖에 도리가 없었다.

나는 일제하에 중단해야만 했던 기독교 교회에 되돌아갔었으나 다시 그 신앙생활을 중단하는 수밖에 없었다. 교회의 지도자들이 줄줄이 체포되어 시베리아 행으로 떠나는 시절이었다. 북쪽에 남아있는 사람들이란 재빨리 이 체제에 순응한 사람들이고 38선 이남으로 인연을 찾아서 나설 수 없는 사람들이었다. 일제하에 공산주의 사회를 그리던 사람들도 많은 사람들이 탈락돼 간 참으로 슬픈 시대였다. 그러니까 남을 그리면서도 찾아 나설 수 없는 북에 남아있어야 했던 사람들이란 북의 공산치하에서 참으로 한 많은 인생을 살아갈 수밖에 없었다.

그런 속에서 친구의 도움으로 38선 이남으로 피신할 수 있었던 나는 정말 다행한

本当に幸せな運命の道を歩んだと言えよう。しかしやってきた南とは、私が北で慕ったそのような美しい社会ではなかった。貧しい土地、つまらない人間が支配する社会は、南北共に同じだと言おうか。しかし、南はより自由に自分の生を追求することの出来る土地であった。

私はその当時南に住む多くの人たちが、その困難な生の中で北を憧憬していることを見て、驚きに耐えなかった。南北どちらでも、与えられた土地で生きていかねばならない生を我慢できなく、苦悩する韓国・朝鮮の人たち。これが解放された土地に生きるこの国の民衆であった。このように願い、苦悩しながら、私は人生とは、どこに行っても、このような苦海であると諦念しつつ、宗教的な境地に憧（あこが）れようとした。

「韓国からの通信」を書きながら

1950年から3年間朝鮮（韓国）戦争が続いた。北から南下した者は、北の体制に背反したものと言って、北の軍隊は生かしておこうとしなかった。そのため押し寄せる北の軍隊を避けて、ひもじい腹をわしつかみにして南下するほかはなかった。米軍がこの戦争に参加してくれたことで、韓国の東南の一角が保存され、生き残ることが出来た。

しかしこのようにして生き残ったとしても、苛酷な運命は変わることはなかった。戦争から生き残った社会は、軍部優位の社会となるほかはなかった。1961年から南の韓国は軍部支配者たちが権力を牛耳る社会となった。それに批判的だと言って職場を追放されるや、私はいくらかも立たず、留学という名で日本を求め、そこで新しい生活を始めることになった。

東京で生活しつつ、私は朝鮮の南の地の軍事政権と対決しようとした。そうして書き始めたのが、「韓国からの通信」（岩波月刊誌『世界』連載）であった。闘争とは、効果的となるためには、一つの対象に集中しなければならない。そのため南の軍事政権と闘いつつ、北の凄惨さは挙論しないことに心を決めた。北がこのように悪いと言え、南がこのように悪いという攻撃の矛先が、鈍くなるのではないか。南の政治勢力が、北を攻撃しつつ、自分たちが正しいと主張しようとするれば、よりそうなるのではないか。南の軍部勢力は、北が正しくないために、自分たちは彼らと闘うために一糸乱れずでなければと弁明しようという姿勢を取っていたためである。

そのため南の軍部政権は、「韓国からの通信」を敵としつつ、これは北を利しようとする親共的勢力であると銘記しようとした。通信はそのためにより対北姿勢に慎重にならざるを得なかった。私は全体主義政権とは、権力に対する牽制勢力が存在しないために、より悪化し、より邪悪化するほかはないという考えを堅持していた。

운명의 길을 걸었다고 할 수 있었다, 그러나 찾아온 38선 이남이란 내가 북에서 그리던 그런 아름다운 사회는 아니었다. 가난한 땅, 보잘 것 없는 인간이 판을 치는 사회는 남북이 마찬가지로였다고 할까. 그러나 남은 보다 자유스럽게 자기 삶을 추구할 수가 있는 땅이었다.

나는 그 당시 남에서 사는 많은 사람들이 그 어려운 삶에서 북을 동경하고 있는 것을 보고 놀라지 않을 수 없었다. 남북 어디에서도 주어진 땅에서 살아가야 하는 삶을 견딜 수 없어하면서 고뇌하는 한국 사람들. 이것이 해방된 땅에 사는 이 나라 백성들이었다. 이렇게 바라보고 고뇌하면서 나는 인생이란 어디를 찾아가도 이런 苦海일 뿐이라고 체념하면서 종교적인 경지를 동경하려고 하였다.

「한국으로부터의 통신」을 쓰면서

1950년부터 3년간 한국전쟁이 계속되었다, 북에서 남하한 사람이란 북의 체제를 배반했다고 해서 북의 군대는 살려두려고 하지 않았다. 그러니까 몰려오는 북의 군대를 피해서 굶주린 배를 움켜잡고 남하하는 수밖에 없었다. 미군이 이 전쟁에 참여해 줌으로써 한국 동남쪽 귀퉁이가 보전되어 살아남을 수 있었다.

그러나 그렇게 해서 살아남았다고는 하여도 가혹한 운명은 가실 길이 없었다. 전쟁에서 살아남은 사회란 군부우위의 사회가 될 수밖에 없었다. 1961년부터 남쪽 한국은 군부지배자들이 권력을 휘두르는 시대가 되었다. 그것에 비판적이라고 해서 직장을 추방당하자 나는 얼마 되지 않아 유학이라는 이름으로 일본에 찾아와서 거기서 새로운 삶을 영위하게 되었다.

도쿄에서 살면서 나는 한국 남쪽 땅 군사정권과 대결하려고 했다. 그래서 쓰기 시작한 것이 「한국으로부터의 통신」이었다. 투쟁이란 효과적이 되기 위해서는 한 가지 대상에 집중해야만 된다. 그래서 남쪽의 군사정권과 투쟁하면서 북의 처참함은 거론하지 않는다고 마음을 정했다. 북이 이렇게 나쁘다고 하면 남이 이렇게 나쁘다는 공격의 화살이 무디어지는 것 아니겠는가. 남의 정치권력이 북을 공격하면 자기들이 옳다고 내세우려고 한다면 더욱 그럴 것이 아니겠는가. 남의 군부세력은 북이 옳지 못하기 때문에 자기들은 그들과 싸우기 위해 일사불란해야 한다고 변명하려는 자세였기 때문이었다.

그래서 남의 군부 권력은 「한국으로부터의 통신」을 적으로 삼으면서 그것은 북을 이롭게 하려고 하는 친공적인 세력이라고 치부하려고 했다. 통신은 그렇기 때문에 더욱 대북자세에 있어서 신중할 수밖에 없었다. 나는 전제정권이란 권력에 대한 견제세력이 존재하지 않기 때문에 더욱 악화되고 더욱 사악하게 되는 법이라는 생각을 저버릴 수가 없었다.

私が北を離れる時眺めた共産政治権力が、3代も受け継いで継続するという考えは、とても予想することができなかつた。その時あのようにひどかつたので、今はよりひどくなっているのではないかと考えざるをえなかつた。何よりも、私が北で南の社会を考えたように、南で北を考えつつ、そこではこのようではないだろう、より良心的勢力が民族の将来のために努力しつつ、互いに協力しているだろうと言つて、そこに参加するんだと北を目指した人々の事を考えながら、私は南では沈黙を守つた。

私が若い頃から尊敬してきた作家李泰俊と金南天、そして詩人林和も北を目指し、どこにどの様になつてしまつたのか考えないわけにゆかなかつた。私には大先輩たちであるから、今は逝つてしまつたが、彼らは本当に北では恨の多い人生を生きつつ、南の遠い空を慕つて、この世を去つたのではないか。そのような意味でも朝鮮（韓）半島は恨の多い土地。今このように私も人生の最後を眺めるようになったのに、朝鮮（韓）半島の地政学的運命だとも言おうか。この土地、この人民が持つた運命、より恨の多い知識人の人生を考えて、ため息をつかざるをえない。

今私は誰にも怨恨を抱かない。そして今も北の土地で苦難を経験している人々。政治犯収容所で身悶（みもだ）えして苦しむ同族たちのために、涙を流す。彼らをそのように（収容所に）追放している力を持つ者たちはどのような人間たちなのか。このような世界史を我々はどのようにして（または、なぜ）受け入れなければならないのか。私は目を閉ざし、このような想念に苦しむほかはない。

手遅れの郷愁

奇異な運命の土地、それも北側の土地で生まれ、20余年後に私は南の土地を踏み、教育も受け、そして日本にも行つて、20余年も過して活動もした。帰国してまた20余年、今はアメリカで自分の人生を終えるのではないかと考える。放浪生活ともいえるように、あちらこちらさすらつたが、過誤多い人生を終えると言おうか。

幸不幸を問わず、ただ与えられた人生を肯定しつつ、今終焉の地を私が選択することが出来るとしたら、やはり幼い時の記憶をたどり、北の故郷の土地であつたらという思いが先立つ。そこに祖父と父も埋まって（眠つて）いる土地が、今もそのままであれば、私もその横に永遠の土地を求められればという思いである。

しかしそこは異国の土地よりも遠い、我々が行くことの出来ない山河ではないか。そうではあつても、今や自由でも得たようにその土地を考えること、これこそ帰巢本能というものではないか。しかしこれは、この地上のどことも遠く南で生きてきた我々が、求めることの出来ない土地。このような考えに到達

내가 북을 떠날 때 바라보던 공산정치권력이 3대를 이어오면서 계속한다는 생각은 도저히 예상할 수가 없었다. 그때 이렇게 악했으니 지금은 더욱 악하게 되었지 않겠는 가고 생각하지 않을 수 없었다. 무엇보다도 내가 북에서 이남의 사회를 생각했듯이 남에서 북을 생각하면서 그 곳에서는 이렇지는 않겠지, 보다 양심적인 세력이 민족의 장래를 위해서 애쓰면서 서로 협력하고 있겠지 하고 거기에 참여한다고 북을 찾아간 인사들을 생각하면서 나는 남에서 침묵을 지켰다.

내가 젊어서부터 존경해온 작가 李泰俊도 金南天도 그리고 시인 林和도 북을 찾아가서 어디로 어떻게 걸어 갔는 가고 생각하지 않을 수 없었다. 내게는 대선배들이니까 이제는 가고 없겠지만 그들은 정말 북에서 한 많은 인생을 살면서 남쪽 면 하늘을 동경하다 이 세상을 떠나갔을 것이 아닌가. 이런 의미에서도 한반도는 한 많은 땅. 이제 이렇게 나도 인생 마지막을 바라보게 되었으니 한반도의 지정학적인 운명이라고나 할까. 이 땅 이 백성이 지닌 운명, 더욱이 한 많은 지식인의 인생을 생각하고 한 숨 짓지 않을 수 없다.

이제 나는 누구에게도 원한을 품지 않으려다. 그리고 아직도 북녘 땅에서 고난을 겪고 있는 사람들. 정치범 수용소에서 몸부림치면서 허덕이는 동족들을 위해서 눈물짓는다. 그들을 그렇게 내몰고 있는 힘을 가진 인가들이란 어떻게 된 인간들일까. 한반도는 왜 이렇게 남다른 고난을 언제까지 겪어지고 허덕여야 하는 것일까. 이런 세계사를 우리는 어떻게 받아드려야 하는 것일까. 나는 눈을 감으면 이러한 상념에 허덕일 수밖에 없다.

뒤늦은 향수라는 것

기이한 운명의 땅, 그곳도 북녘 땅에서 태어나 20 여년 후에 나는 남쪽 땅을 밟아 교육도 받고 그리고 나서 일본에 가서 20 여년을 지내고 활동도 했다. 귀국해서 다시 20 여년, 이제는 미국에서 내 인생을 끝내는 것이 아닌가 생각한다. 방랑생활이 나 하듯이 이곳저곳을 떠다니다가 과오 많은 인생을 마감한다고 할까. 행불행을 묻지 않고 다만 주어진 인생을 긍정하면서 지금 종언의 땅으로 내가 선택할 수만 있다면 역시 어릴 적 기억을 더듬어 북녘 고향 땅이었으면 하는 생각이 앞선다. 거기 할아버지도 아버지도 묻힌 땅이 아직도 그대로 있다면 나도 그 옆에 영원한 땅을 찾았으면 하는 생각이 든다.

그러나 그 곳은 이국땅보다도 먼 우리가 갈 수 없는 산하가 아니겠는가. 그런데도 불구하고 이제야 자유나 얻는 것처럼 그 땅을 생각하는 것, 이것이야 말로 歸巢本能이라는 것이 아니겠는가. 그러나 그것은 이 지상 어디와도 다르게 남녘에서 살아온 우리들이 찾아갈 수 없는 땅. 이런 생각에 다다르면 나는 남북으로 갈라져 사는

すると、私は南北に分かれて生きる多くの同胞たちを考え、このように南北に分けられた朝鮮（韓国）の土地は、実はこの民の怨声で溢れている土地であると考えさせられた。

どれだけ多くの人々が南北に分かれたまま、息を引き取らねばならなかったのか。今日このような残忍な土地が世界のどこに、またあるか。このような土地をそのまま残したまま、皆が諦めて忘却して、この世を去らなければならない土地が、またどこにあるか。このように考えると、朝鮮（韓国）の政治は、南北どちらを見ても、一番残忍な政治体制だと言わなければならないかも知れない。

これは、冷戦という残忍な現代政治が残（遺）している悲劇、我々はその政治に巻き込まれ、耐え切れず、諦めて見捨ててしまい、今やそれを当然だというように受け入れているのではないか。

どんな権限で、国土を南北に分けたままにして置いて、その痛みを身震いする国民を抑圧しつつ、自分の体制だけを正当だと声高に叫ぶのか。このような残忍な世紀の悪遺産の中に、今も北では政治犯収容所という所がある。かつての姜哲煥のような子供たちまで閉じこめ、強制労働させている所。20世紀の世界政治が残した悲劇を今もそのまま放置している政治権力、そしてそれを見過ごしている国際政治。これは現代がどれほど残忍な時代であるかを我々に示している。これに無感覚であることは、必ずやこの現代における世界的な人間悪（ではないかと考える。国土の分断とその遺産である政治犯収容所、このような人間悪を我々は告発しなければならないのではないか。

その痛みを耐えていかねばならないこれ以上ない苦痛。この人間悪が、今21世紀に解決しなければならない最大の課題ではないかと考える。たとえ自国の利益を掲げると言っても、これを放置した姿勢とは、恐ろしい人間悪ではないか。自分の家族、自分の兄弟とは会うことが出来なければならない。自分が愛する父や母、祖父や祖母とは、一緒にいて、彼らが世を去ったあと、自分も彼らの横に眠ることが出来なければならない。

残忍な近代はこのような人間本来の道を阻んできた。そうしてそのような悲劇が与える痛みまでも忘却しようとして強要してきたのではないか。今やそのような過ぎた日の責任を問いつつ、対立しようということではない。このような人類の悪を共に考えつつ、人間らしい時代を回復しようというのである。

本当に間違っ歩いてきた近代。解放後だけでも70年という歳月を回想しながら、人間本来の道を歩いてみようというのである。本当に長い間我々はその道を外れていた。今や私は聖書が言う「放蕩息子が帰ってきた」という言葉を考えながら、この土地に与えられなければならない最後の日を願うのである。

（小川晴久訳）

많은 동포들을 생각하고 이렇게 남북으로 갈린 한국의 땅은 사실은 이 백성의 원성으로 가득 찬 땅이라고 생각하게 된다.

얼마나 많은 사람들이 남북으로 갈라진 채 숨을 거두어야 했을까. 오늘날 이런 잔인한 땅이 세계 어디에 또 있을까. 이런 땅을 그대로 남겨둔 채 모두가 체념하고 망각하고 살다가 떠나야 하는 땅이 또 어디에 있을까. 이런 의미에서 한국의 정치는 남북 어느 쪽을 보아도 가장 잔인한 정치체제라고 해야 하는 것인지도 모른다. 그것은 냉전이라는 잔인한 현대정치가 남겨놓은 비극. 우리는 그 정치에 말려들어 견디다 못해 체념해 내버리고 이제는 그것을 당연하다는 듯이 받아드리고 있는 것이 아닐까.

무슨 권한으로 국토를 남북으로 갈라놓고 그 아픔에 몸부림치는 국민을 억압하면서 자기의 체제만이 정당하다고 큰 소리 치는 것인가. 이런 잔인한 세기의 악유산 속에서 지금도 북에서는 정치범 수용소라는 곳이 있다. 이전에 姜哲煥과 같은 어린 아 이들까지 가두어 놓고 강제노동하게 하는 곳. 그 20세기의 세계정치가 남긴 비극을 아직도 그대로 방치해 두려는 정치권력 그리고 그것을 지원하는 국제정치. 그것은 현대가 얼마나 잔인한 시대인가를 우리에게 보여주고 있다. 그것에 무감각하다는 것이 곧 이 현대에 있어서의 세계적인 인간악이 아닐까 생각한다. 국토의 분단과 '정치범수용소, 이런 인간악을 우리는 고발해야 하지 않겠는가. *

그 아픔을 참고 견디어 내야만 했던 더할 수 없는 고통. 그것이 이제 21세기에 해결해야 할 최대의 과제가 아닌가 생각한다. 아무리 자기네 국가이익을 내건다고 해도 이것을 방치한 자세란 무서운 인간악이 아니겠는가. 내 가족 내 형제는 만날 수 있어야 한다. 내가 사랑하는 아버지와 어머니, 할아버지 할머니와는 함께하고 그들이 이 세상을 떠났다면 나도 그들의 옆에 묻힐 수 있어야 한다.

잔인한 근대란 이러한 인간 본래의 길을 막아왔다. 그리하여 그러한 비극이 주는 아픔마저도 망각하도록 강요해왔던 것이 아닌가. 이제 그런 지난날의 책임을 물으면서 대립하자는 것이 아니다. 이런 인류 악을 함께 생각하면서 인간다운 시대를 회복하자는 것이다.

정말 잘못 걸어온 근대. 해방 후만 해도 70년이나 되는 세월을 회고하면서 인간 본래의 길을 찾아보자는 것이다. 정말 오랫동안 우리는 그 길을 벗어나 있었다. 이제 나는 바이블이 말하는 '탕자가 돌아오다'를 생각하면서 그 땅에서 주어져야 할 마지막 날을 기원하는 것이다.

* 이것을 이제 21세기에 해결해야 할 최대의 과제
この問題を今世紀に解決しなければならない最大の課題

池明観氏が 朴槿恵政権時代、韓国を離れた理由

一九七四年八月十五日 以後娘の朴槿恵が父親朴正熙のイメーシアム役を果たした

「朴正熙夫人の死の後、その頃たびたびファースト・レディの身代わりとして政治の表舞台に現れるようになった朴正熙の長女朴槿恵について、ここで通信が伝えたことに少し言及することにした。朴正熙の息子朴志晩が、高校の卒業式で一般的に首席優等生が代表して受けることになっている卒業証書を受けとるかと思うと、「この式場では破格的に朴正熙氏の令嬢が父兄を代表して祝辞を述べた。」「国家のために力強く働く若者になつてほしい」と。そこで通信はつぎのように伝えたのであった。

「朴正熙がその令嬢をテレビに出して自分のイメーシアムをしようとする努力が最近とみに増え

てきた。(へいまやわが国は誇ることのできる国になつた) (しかし経済成長には精神の成長が伴わねばならない) — このような(教え)もあるが、父、または妻を失つた夫としての朴正熙氏の倫理的な人間関係を讀める言葉が尽きない。(新しい建設など立派なことがなされた時には、父は、母がいたならばと思うのです。母の励ましがもつとも必要なことでした) (父は貧しい家庭で育つたので、ただ富強な国をつくることを夢にも忘れないようです) (父の枕もとには常にメモがあります、そこで父が国を思う一つの姿を見るような気がします) (父は黙っていてもいつも何かを考えているように見えます)

彼女の素朴な(忠孝道義)は、庶民の間で何かの効果をあげていると思つてゐるのだろうか。それとも、あの高校の卒業式の時と同じように、ただ上御一人の御満足のための一幕のドラマであろうか。ただ恥ずかしい思いを反芻するばかりである」(「世界」77年3月号) 3・1法廷の語録(参照)

「この頃は忠孝を掲げて(セマウムカツキ(新しい心を持って))運動を始めた。全国的に国民を動員しては(セマウムカツキ)大会をやるのである。そして朴正熙氏の年若き令嬢が(セマウムカツキ運動はわが民族精神の基本であった忠孝思想を今日にあらうように再び生かして精神的な真の価値と確固とした道徳観をわが社会に植えつける基盤を作るといふ特徴をもつています」と訓示するのである」(「世界」77年7月号「流言の日々」参照)

「韓国がらの通信の所載 池明観著(影写本) 140-141頁

NHK ラジオ、韓国語放送の番組「ハナカフェ」に当会副代表

宋允復氏出演

アニメ映画「TRUE NORTH」の縁で宋允復氏が今月から(4月は17日と24日)この番組に出演され、韓国語(朝鮮語)で北朝鮮の人権活動についてインタビューに答える形で、韓国語で話をされます。5月1日と8日は石丸次郎さん、そのあとまた宋さんが出演される可能性あり。毎回20分。接続アドレスは以下の通り。

<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/ko/radio/listener/>

NO FENCE の新年度オンライン総会は5月中～下旬を予定

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

Vol. 83 2022年5月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203
nofenceinfo@gmail.com
<http://nofence.jp/>



(始めに)今号は二つの内容から成ります。今月8日に亡くなった韓国の詩人金芝河氏の短い追悼(編集子)、今一つは本会会員で毎日毎日北朝鮮をウオッチされている元ジャーナリストの山元泰生氏の北朝鮮報告、今後短いものでも何度も登場して頂ける可能性があります。

「飯が天である」——金芝河追悼 小川 晴久

なぜ本誌に金芝河追悼なのか、そしてなぜ私なのかを説明します。金芝河は1941年2月4日生まれ。私は1941年3月8日生まれ。1970年代に金芝河が朴正熙軍事独裁政権との闘いの中で投獄され、死刑判決を受けたとき、私は彼の救援運動に参加していました。全く同じ年なのに、彼と自分とはこうも才能が違うのかといつも思いながら。半世紀近くたつ今日まで変わりありません。最初の理由。私は彼が北朝鮮の酷い人権抑圧に発言し、それに抗議したことを知りません。私が1994年以降北朝鮮の恐ろしい強制収容所の存在を知り、その廃絶運動に取り組みだして以降、金芝河も発言してくれるといいなと時折思いましたが、それは実現しなかったと思います。彼はのちに生命の思想を主張していきますから、彼の視野の中には北朝鮮の飢餓問題が入っており、心を痛めていたと思います。1999年金芝河夫妻が日本に招かれたとき、あるメッセージを寄りましたが、生命思想のメッセージでした。今回のネットでの死去の記事である方が数行からなる「飯が天である」という詩を紹介していました。タイムリーないい詩だなと思いましたら、1975年5月に発表された『良心宣言』という有名な文中に出てきました。その詩を以下の余白にご紹介し、彼の追悼にかえます。この詩は現在の北朝鮮の飢餓に苦しむ民衆を救う歌になります。詩の後に少し説明しますが、戯曲チャンイルタムで彼が民衆と共に都に進軍するときに歌います。

飯(めし)が天です 天を独りでは支えられぬように
 「밥이 하늘입니다. 하늘을 혼자 못 가지듯이
 飯はたがいに分ち合って食べるもの 밥은 서로 나눠 먹는것
 飯が天です 天の星をともに見るように 밥이 하늘입니다. 하늘의 별을 할께 보듯이
 飯はみんなが^{*}分けて食べるもの 밥은 여럿이 갈라 먹는것
 飯が天です 飯が口に入るとき 밥이 하늘입니다.
 天を体に迎えます ^{가슴} (体の中心位置) ^가 밥이 입으로 들어갈 때에
 飯が天です ああ 飯は 하늘을 몸속에 모시는것
 みんながたがいに分ち食べるもの ^{*} (一部小川 補訳) 밥이 하늘입니다. 아아 밥은
 모두 서로 나눠 먹는것

金芝河の『良心宣言』での構想によれば、白丁(賤民)と売春婦の間に生まれたチャンイルタムは元来「盗っ人」であるが、ある時に悟り、金は金持ちから奪い、貧乏人が皆で分かち合うものと実行し、獄につながれる。脱獄し、労働者・農民に伝道し、「飯は天である」の歌を歌ってソウルに進軍する。彼は捕まって首を刎ねられるが、三日後に復活し、…。[金芝河作品集『不帰』(中央公論社、李恢成訳)所集「良心宣言」371頁参照。]

(補足) 朴正熙軍事独裁時代彼は「お前は共産主義者である」と安企部から執拗な取り調べを受け続け、自分の命を救うために権力側の言う通りの内容の供述書に署名する。彼はこの時すでにカトリックの信仰を持っていた。断固として共産主義者ではないと主張し続けたことが、生前北朝鮮の人権抑圧に対して発言しなかったことの深い根拠であったのだろう。私は今にして金芝河を十分に理解する(小川 晴久)。

コロナ感染大爆発と北朝鮮住民の人権

——金正恩政権が感染を隠し続けておかしなことになってきた——

山元 泰生(本会会員)

■北朝鮮の発表は矛盾だらけ

北朝鮮が、初めて「新型コロナウイルス」感染者の発生を認めた。国営・朝鮮中央通信の発表によれば、最初の感染者が首都・平壤で見つかったの

は5月8日で、それからわずか数日のあいだに「感染の疑いのある発熱者」は121万3500人に激増し、死者も50人に膨れ上がった。

金正恩総書記は緊急の労働党政治局会議で、「最大非常防疫体系」への移行を宣言。「国家非常防疫司令部」に赴き、全国すべての道、市、郡の都市封鎖を指示したという。

だが、これらの発表にはいくつかの矛盾がある。これまで2年以上にわたって「感染者が1人もいなかった」というのは信じがたいことで、発熱者がわずか数日で「120万人に増えた」というのも不自然な数字だからである。発表の意図は、すでに全国で鬱積していた「コロナ過」を、もうこれ以上ウソで隠し続けることができなくなったからであろう。

■検査も薬もない「鎖国策」の破綻

中国・武漢で発生した新型コロナウイルス感染症が、欧米・日本・韓国などに波及して大きな国際問題になったのは、2020年1月のことだ。

北朝鮮は、かけがえのない友好国である中国との国境を閉鎖し、党機関紙・労働新聞は全国の住民に向かい、コロナの流入を「国の存亡に関する重大な政治的問題だ」と告知した。

具体的には、北京と平壤を結ぶ国際航空・列車の運行をすべて停止し、中国をはじめとするすべての外国人観光客の入国と、中国やロシアにいるすべての北朝鮮人の帰国を禁止した。

また「ウイルス流入の恐れがあるから」として、外国との貿易や人事交流、手紙のやり取り、電話連絡などを厳しく制限し、外国資本の混じった開発事業や周辺海域での漁業さえもやめさせてしまった。

さらには、全ての住民に中朝国境の鴨緑江や豆満江に近づくことすら厳禁し、あえて川を越え中国に行こうとする者に対しては、国境警備隊に「現場射殺」を命じたのである。事実、多くの住民が脱北を企ててその犠牲になったという。

こうして北朝鮮はコロナ対策のために検査もできず治療薬もないのに極端な「鎖国策」を取ったのだが、全くと言っていいほどその効果はなかった。

■ヨモギを焚いて体を消毒した！？

例えばこの国で「国家を支えている」とされる朝鮮人民軍のなかでは、どんな防疫対策が講じられてきたのだろうか。韓国のデイリーNKや米政府系ラジオRFAなどは、いくつかの部隊の内情を次のように伝えている――

*軍部隊の兵士たちには、遮断幕の張られた兵舎からの外出を差し止めた。

家庭をもつ軍官（将校）たちも部隊と自宅以外の場所への出入りは禁止され、その妻が許可なく買い物に行くこともできなくなった。

* これまで下級兵士が行なってきた農作業や煮炊き用の薪取りなどの多くは、雑務係の「軍労務者」に代行させ、食糧の搬入は兵士の起床時間の午前6時までには終わらせることにした。

* だが、肝腎のコロナ防疫の装備と資材は貧弱で、そのため兵士たちは、部隊内ではヨモギを焚いて体を消毒した。手を洗うにもお湯がほとんど出ないため、中には自分の小便で手洗いする者もいた。

* PCR検査は行なわれていない。体温計は、中国製のものが1中隊当たり1個支給されており、衛生兵が将兵の体温を毎日測っているが、発熱や咳などの症状が少しでもあると、別棟の隔離部屋に収容した。

こんなことで、コロナ防疫対策がうまくいくはずもなかろう。軍部隊ですらこんな有様だから、一般住民のあいだでは、手の打ちようがなかったといっても過言ではない。

たとえ「感染を調べる」といっても検査キットがあるわけではなく、「治療する」といっても、受け入れてくれる病院もなく薬もない。ついでに書くなら注射器だって、一度使ったものをぬるま湯で洗い、それをまた何度も使っているような国なのだ。

■全国で繰り返された「コロナ騒動」

金正恩総書記が「わが国にはコロナ感染者は1人もいない」と胸を張っている裏で、明らかにコロナウイルスが原因と思われる発熱・死亡騒動が後を絶たなかった。朝鮮日報やRFA、アジアプレスの報道などから、いくつかのケースを紹介すると――

* 平安北道・新義州では風邪をこじらせた男性3人が、病院で解熱剤を投与されたが熱が下がらないまま死亡。隣の義州でも高熱の患者2人が発熱の原因が分からないまま死んだ。

* 平安北道・龍川では中朝貿易の停止後も密貿易にかかわっていた50代男性が、発熱・咳などの症状がひどいのに病院へ行けず、自宅で何をしても熱は下がらず1週間後に死亡した。

* 平安南道・价川の農場では、債権者の倉庫長が、新型コロナウイルス騒動の煽りを受けて金の返済に行き詰まった女性に「この馬鹿野郎！」と暴言を吐き、殴る蹴るの暴行を重ねたため、女性の息子に殺害された。

* 羅先市や清津市でも「高熱や気管系で死亡する住民」が続出した。消毒剤も検査キットもないため、「農薬噴霧器をつかって共同便所などに塩

水を散布して拡大防止に当たった。

このような事例は枚挙にいとまがない。北朝鮮当局はこれらのコロナの流行を、時には「肺炎」とし、また時には「原因不明の風邪」として処理し、死ねば遺体を秘かに焼却してきた。だからこれまで「コロナはゼロ」を押し通しことができたのである

■「コロナの疑い」で殺された者もいた！？

これらのケースをよく検討すると、この国の「コロナ騒動」は、首都・平壤でも起きてはいたが、主に中国との国境に近い北部の地方で頻発していた。しかも、これはいかにも北朝鮮らしい当局の対応であるが、発熱者または「コロナ感染の疑いのある」者を、まるで犯罪者とみなし、残酷で徹底した隔離、隔離によって時には死なせてしまっていることである。

脱北者で「東亜日報」の敏腕記者として知られるチュ・ソンハ氏は、自らのブログに「コロナ絡みで殺されてしまった」いくつかのケースを紹介している――

- * 北朝鮮ではこの2年のあいだにコロナウイルス感染者3人が処刑された。そのうちの一人は、新義州市の埠頭を管理する貿易会社の保衛指導員で、防疫規則を破って中国人と接触し、密貿易で小遣い稼ぎをしていたため、祖国反逆罪で銃殺された。
- * 北東部の羅先市では、中国から帰ってきた貿易業者が、指示を破って隔離所から抜け出し、しばしば大衆浴場に行っては、そのあと酒を飲んでいたことがバレてしまって市保安部に捕まり、「何が悪いんだ！オレはコロナじゃない！」などと叫んで暴れたため、取調べ室で殴り殺された。
- * 咸鏡北道・会寧市では、新型コロナウイルスへの感染が疑われるとして、自宅に強制隔離されていた50代の女性が、釘などを撃たれて家を密閉されたうえ、食糧も薪も尽きてしまったため、早朝、当局の見回りが始まる前にガソリンをかぶって焼身自殺した。

■政治犯強制収容所のなかでは、、、

さらに残酷なのは、この国で「管理所」と言われる政治犯強制収容所や「教化所」と言われる一般刑務所の実情だ。そこでの当局の残酷な振る舞いと収監者の悲劇については、韓国の脱北者団体などがしばしば指摘してきたところだ――

- * 管理所でのコロナ対策は、管理者や警備兵を対象としたもので、収容者はそもそも人間扱いされていないため何の対策も施されていない。収容者の数も「何人」ではなく「何個」と数えられている。

* 北朝鮮は黄海北道の平山、首都・平壤郊外の勝湖里、平安北道の枇峴の3か所に、管理所を新設し、また既存の管理所の規模を拡張するなどしている。全体の収容者数は、昨年7月の時点で23万2400人に達し、前年3月と比べ2万人以上増加している。

* 特に咸鏡南道・耀徳の15号管理所では、拷問、暴行、不衛生な環境、栄養失調などで数多くの死者が出たため建物や敷地、管理能力に余裕ができて、その後多くの者が新たに収容された。

韓国の「聯合ニュース」などによれば、最近、政治犯収容所に連行されるのは、政権への批判者や脱北者ばかりではない。むしろ、韓流ドラマや音楽をCDなどで視たり聴いたりしただけで、家族ともども放り込まれる事例も増えているという。

彼らは、その門をくぐらされた次の瞬間から「何個」と数えられるくらいだから、そこに生きる権利や健康が考慮されるはずもない。事実、病いを得て死亡すれば、施設内の窪地に放り投げられ「野犬のエサ」になるだけだとも伝えられている。

ましてやコロナ問題で、何人感染したのか？何人死んだのか？なんてわかるわけがない、強制収容所は「論外の世界」だからである。

■北朝鮮から目が離せなくなってきた

北朝鮮の突然沸いたような「コロナ感染者の激増」に対し、韓国の尹錫悦新政権は「北が応じるならワクチンを含む必要な支援を惜しまない」として、救助の手を差し伸べようとしている。

だが、これまでのいきさつからして、北朝鮮がこれを素直に受け取るとは考えられない。現在の南北関係は、韓国側の「支援の通知文」すら届けられない状態にまで悪化してしまっているからだ。

また、新型コロナ・ワクチンの公正な分配を目指す国際的な枠組み「COVAX＝コバックス」は、昨年以来3回にわたり北朝鮮に対し人口の16%分に当たる811万5600回分を割り当てたが、北朝鮮は「欧米のワクチンを信用することはできない」として受け取りを拒否した。

金正恩総書記は「自力更生」でこの危機を乗り切ろうとしているらしいが、検査もできず治療薬もないのに、何の「自力更生」であろうか。全国の住民を真冬の北風に向かって裸で立たせているような話であろう。

今もなお、弾道ミサイルの乱射にうつつを抜かしている北朝鮮が、核・ミサイル開発と空前の「コロナ大爆発」のあいだで、これからどのようなことになるのか目が離せなくなってきた。

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」会報

NO FENCE

vol. 84 2024年6月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203

nofenceinfo@gmail.com

<http://nofence.jp/>



NO FENCE 総会無事終了！

2022年度総会は5月29日(日)午後4時から7時までオンラインと会員の返信用ハガキによる意思表示(32通)、直前の電話による意思確認(16名)で、成立要件(半数)を大きく上回る50名近い「総会文書了承」を得て、終了しましたことを、ここにご報告致します。

以下主だった内容と反省点を記します。返信用ハガキのご意見欄・要望欄にしたためられた中で常任世話人の並河真知子さん(当日オンラインでもご出席)の次のようなご意見を活動方針案討議の所で披露し、改善していくことになりました。

「もっと世話人メンバーを増やしたいです。特に女性メンバーを増やし、賑(にぎ)やかな会になるよう、会員獲得を探りたいです。」と。当時ご出席されていた林久美子さんに宋允復氏から直接依頼があり、土曜の午前11時ごろからオンラインによる世話人会議に参加して頂き、自由に意見を交換する形でいいのであればと、ご本人に前向きで検討して頂けるやり取りでした。参加されていた会員の田平啓剛さんに、最近の中国への対応に発言を求めましたら、プーチンのウクライナ侵攻に対し、習近平国家主席に要請文を出したという、驚くべき活動の報告がありました。総会報告の一部として田平氏の要請文(スペースの関係で中文ではなく日本文)を本会報に紹介します。残念ながら中国側(主要メディアも含め)からの反応はゼロとのことでした。

最後に事務局からの反省点です。総会文書と返信用のハガキの送付が総会の5日前となって、27日(金)までの返信要請(最近は土曜配達をしなくなったので)はあまりに急でした。この報告を書いている6月5日現在38通の返信がありました。来年の総会にはこのようなことのないよう、もう少し時間を取って準備します。大きな反省点です。しかし直前の意思確認の電話で会員諸氏の生の声を聴くことができ幸いでもありました。ハガキの通信欄にも暖かいお言葉が多くありました。感謝します。

張世律氏講演要旨

最近北朝鮮当局がコロナ感染自体を初めて公認し感染者数を発表した事態に即し、張氏は90分の講演時間の4分の3近くを2019年から最近までのコロナ感染と北朝鮮当局の対応を、かなり詳細に報告した。最後の4分の1はコロナ禍での市場の営業規制について(経済事情)であった。以下ごく要点だけをご紹介します。

始めに自己紹介の中で彼が代表をしている全国脱北民連合会には68の団体が加入していることを明らかにされた。

〈張世律氏が明らかにした北朝鮮のコロナ感染と対処の状況〉

- ・2019年武漢に働きに行っていた7名の労働者が感染し、帰国する。
- ・2020年4月15日、25日の行事を中止するなど対策を取り始める。平安北道、平安南道、平壤で1万4千人感染。北朝鮮側からの提案で、シノバック(中国の製薬会社)とのワクチン共同治験に北朝鮮医療陣が参加。中国から中国製ワクチン30万バイアルを購入し、高級幹部や平壤人に使用。
- ・2020年12月「コロナ100」という中国製ワクチンを900万本輸入するよう金正恩に進言。300万本の輸入確保(通信員による)。
- ・2021年1月、平壤の金萬有病院医学研究所が、中国のシノバックとの合併で、コロナワクチン生産をシミュレーションし、生産可能との報告を上げる。しかし生産したという事実は確認できていない。
- ・2022年1月オミクロン北朝鮮に入る(1月29日会寧で軍人が中国とたばこや加工食品を密輸した際、軍人2人が感染)。咸鏡北道に広まる。
- ・今年4月15日、4月25日の行事のため3月に地方から軍人2万1千人を平壤に集め、準備訓練に当たらせる。軍人たちを通してオミクロンが平壤市民に広がり、4月30日には平壤市民7万4千人が発熱。
- ・閲兵式に参加した軍人には2週間の報償休暇が与えられた。それぞれの地方に帰った彼らを通じてオミクロン感染者が全国に拡散しているという報告が5月11日に金正恩に上がる。
- ・5月13日金正恩は超非常防疫態勢をとると言明し、5月14日軍・民連合防疫司令部を設置し、5月14日から20日まで市場やサービス部門の営業を禁止するという措置をとる。
- ・これに対する猛反発が出たので、5月21日規制を若干緩和し、市場での営業は60歳以上は禁止。営業者を3分に1以下に減らす、但し検査は強化するとした。
- ・軍医科大学の4年生から6年生の学生たちも含め動員された医療陣は90万人に上るといふ。有事の際の軍用備蓄品である一号医薬品(ペニシリン、マイシリ

ン、ノボカイン、シグマミチンの抗生剤、モルヒネ注射)を放出し、軍、党、民の総動員体制で当たっている。

- ・現在240万人が治療を受け、集団免疫が獲得されたと宣言し、コロナ対策にかなり自信を持っているように見える。
- ・なぜ今まで国内での感染を否定していたのに、今回突然認め、発表したのかという質問に対し、張氏は、2020年以来の治療経験の蓄積で自信を獲得し、アメリカ主導で形成された『ワクチン秩序』に依存せずともコロナに対処できることを世界に示しつつ、国際社会から経済支援を引き出す目的があるのではないかと論評した。
- ・北朝鮮は生物化学兵器の開発に力を入れてきた。生物兵器にはウイルスも使うので、ワクチンや解毒方法もよく研究している。政治犯収容所の囚人を使って人体実験もふんだんに行うので西側諸国より進んでいる。
- ・餓死で死ぬよりは、栄養失調の体に強い薬を投与されて、薬で死ぬケースが目立っているという。

〈北朝鮮の経済事情〉

コロナ禍での市場規制に関連して、新しい形態の経済が発生している。

- ・60歳以上の商売人が市場から締め出されているので、A4サイズの広報誌を撒いたり、地域の詰め所に張り紙をし、我が家ではコメを商っている、連絡を乞うとして電話番号まで記す。これを見た市民が電話注文すると、自転車による宅配人がそれを届けるという、家対家の商売が始まったという。社会安全省もこれを歓迎し、是認しているという。人が集まるのを防ぐ、コロナ対策上こちらの方がよいという判断らしい。
- ・「バツタ市」で何とか食いつないでいるという。市場から締め出された60歳以上の商売人は、風呂敷包みに商品を入れて、あちこちの街角に表れて、商売し、取締官(糾察隊)が来ると、パッと逃げ、また別の所で店を開く。バツタのようにあっちへ飛び、こっちへ飛びバツタ市が出現している。朝10時から夕方7時までの公式市場は閑散としているが、バツタ市は盛んであるという。
- ・今当局が一番厳しく取り締まっているのは麻薬(覚せい剤、ヒロポン)である。5月19日社会安全省は「麻薬がコロナに効くと宣伝している者は、人民の生命と安全を脅かす反党反革命分子として厳罰に処す」という布告を出した。製薬工場のある咸興(ハムン)で覚せい剤が生産されており、捜索が行われている。コロナ禍で麻薬中毒者がかなり増えた。
- ・「幹部たちは危機家庭の世話をしろ」という指示を金正恩が出した。幹部たちは頭を抱えている。

1) ウクライナ問題について、貴方様が私に代わって、以下の3点を全世界に向けて宣言して戴けるなら、心からの感謝を捧げるものです。

① ロシア軍とウクライナ軍とは直ちに停戦し、ロシア軍はウクライナの領土から即刻撤兵します。

② 米国政府及び欧州各国政府は北大西洋条約機構（NATO）の解体の検討に着手し、今後概ね5年以内を目標とします。

③ 中国政府は中ロ国境全域に亘って人民解放軍を集結し、展開します。

2) 2月24日以来、ロシア軍とウクライナ軍との戦闘は時を経る程に激化し、死傷者も多数出ています。しかし、今後、大都市キエフの包囲戦が始まれば、非戦闘員の死傷者が増え、分けても婦女子の死傷者が確実に激増します。従って、即時停戦①は人権人道上、先ず第一に必須なことです。

3) ロシア軍のウクライナ侵攻の真正の原因はNATOの東方膨張です。1991年7月1日、プラハで、ワルシャワ条約機構が同議定書の調印によって解体されました。その時、米国とソ連の冷戦は終結し、NATOも同時に解体されるべきでした。従って、NATOは早晚解体されるべきであって、②に述べたとおりです。

NATO解体は実は米国も歓迎している、と考えます。米国はその国力を、今はその国内事項及びアジア、特に中国マターに集中させる必要があり、或いはそう望んでいます。5年後以降は、欧州連合（EU）及び欧州安全保障協力機構（OSCE）がNATOに代替します。軍事面を含めて。

4) 中国は既に国連の5大常任理事国の1つです。21世紀においては、貴方様は中国が中華民族の偉大な復興の夢を実現するべきだと仰られました。世界の新しい警察官として、政治的経済的に地球第一のリーダーとして、中国は世界的な乱暴者—ロシアのプーチン大統領を抑えつけるべきです。従って、③に述べた通り、中国は人民解放軍を中ロ国境線沿いに展開するべきなのです。言葉だけではなく、中国の覚悟と力を全世界に見せつける為に。

5) 2013年12月5日、中国とウクライナは中国の核戦力を用いてウクライナ国家の安全を図ることを合意しました。最近、プーチン・ロシア大統領がウクライナに対して核兵器の使用を示唆しました。従って、中国はウクライナを防衛する義務と責任を負うのです。

被爆二世の一人として、声を大にして主張します。“核兵器を使わないでください！人類史上、最後の被爆都市は長崎なのです”と。

以上